

令和8年3月9日

令和7年度 府中市立武蔵台小学校 学校経営報告

府中市立武蔵台小学校

校長 山中 慈子

目指す学校

SMILE! 一人一人の笑顔が輝く学校に
～感動と笑顔あふれるみんなの学校～

1. 今年度の取組と自己評価

(1) 教育活動への取組と自己評価

「安心・安全で生き生きと過ごせる学校」づくり

ア○「特別の教科 道徳」の内容項目を踏まえ、実生活に即して自分で「考える道徳」でお互いの考えを聞き合い、さらに考えをすすめる「議論する道徳」を行ってきた。道徳担当教員を中心に道徳授業地区公開講座授業のもち方を共通理解し、講座も訪問看護認定看護師による『正解のない時代を子供と生きる～令和小学生の子育てのポイントを学ぶ～』という保護者等のニーズに合った演題で開催した。

○特別支援コーディネーターや生活指導主任を中心に、校内委員会、生活指導夕会、その他の機会を有効に活用して、個のニーズに応じた支援を検討し、実行に移してきた。児童には特別支援教室理解集会、教員には特別支援に係る研修を行った。不登校問題についても教員にグループ別研修を行うなど組織的に理解向上に努めた。関係諸機関との連携も随時行った。

○「人権教育プログラム」等を研修時に活用し、人権感覚の研磨に努めた。

○デフリンピック・パラリンピック・オリンピック教育については

全校 デフリンピック・パラリンピック・オリンピック講演

4年生 デフリンピックバレーボール体験

4年生 パラリンピックブラインド陸上体験

5年生 デフリンピックハードル体験

3, 4, 5, 6年生 車いすバスケット体験

4, 5, 6年生 デフリンピックバドミントン観戦

を行った。実際に選手から話を伺い、競技に触れることで理解を深めた。

また、1, 4年生は手話協会の方から手話通訳を通して手話を直接教わった。本校は伝統的に1年生が校歌の手話を教わる。今年度は4年生も校歌の手話を再度教わり手話ビデオを作製した。それを全クラスに配信し、全クラスが練習した。

2月25日に手話音楽集会を開き、4年生児童が司会進行を務めて校歌を手話をつけて歌った。6年生を送る会で歌う歌にも一部手話を付けて歌うなど、全校で1つのことに取り組んだ。

イ〇・性教育

低学年では、計測時の保健指導の中で、「トイレの使い方」「排便」で性器の清潔や食べ物の旅、おしりの拭き方などを指導した。

4年生では、保健学習の中で、「体の中で起こる変化」、計測時保健指導では「命のつながり」について学習した。

高学年では、宿泊行事前の保健指導として、5年生は「体の変化や仕組みを理解し、入浴時のマナーを考える」、女子には加えて「月経時の手当の仕方を知る」などを指導した。6年生では、「個人差及び異性に対する正しい理解をすること」に注視して指導を行った。

・薬物乱用教室

6年生の保健学習で、薬物乱用の害の授業後、オーバードーズ等身近に起こり得る薬物乱用について、学校薬剤師、担任、養護教諭が連携して指導した。

・食育

食の大切さとともに歯磨き指導に重点を置いた。

1～3年生は、歯磨きカレンダーに取り組み、歯磨き習慣について指導した。

4～6年生は、歯垢染め出しを行い、自身の歯磨きについて注目させた。

今年度も本校は「東京都学校歯科保健優良校」に選ばれた。

〇外部講師(アスリート等)の活用では

- 1, 2年 FC 東京あおあかドリル出前授業
- 3, 4年 タグラグビー出前授業
- 3, 5年 読売巨人軍出前授業
- 6年 世界陸上体験教室
- 6年 FC 東京出前授業

を行い、スポーツへの関心を高め、すすんで運動に親しむ機会を設けた。

ウ〇学校だよりや全校朝会等で、生活のめあてを活用し、あいさつなどの学校での規則正しい生活習慣の確立を図った。日常的に登校時は管理職や警備員が挨拶をし、また、年2回1週間ほど、登校時に府中第七中学校の生徒と本校の児童が正門あたりに立って、あいさつ運動を行った。朝会やあいさつ運動の時は挨拶する児童が増えるが、年間を通してみると波がある。これからも定着するよう指導を続けていく。

〇セーフティ教室や情報モラル教育では、連れ去り防止や万引き・いじめ防止、SNSの使い方等の指導を行った。特に SNS に関しては、放課後の過ごし方の呼びかけの中に新たに「子供たちだけで、グループ LINE やチャットをつかわないようにしましょう」の一文を盛り込み、児童だけではなく、保護者会で各学年呼びかけ、学校だより、長期休業中の過ごし方の文書でも再度掲載するなど、様々な方法で注意を呼びかけた。

防災教育では、月に1回の避難訓練に加え、引き取り訓練、不審者対応訓練、防

災訓練を行った。

- 「ふれあい月間」・「こころの天気予報」での実践やいじめに関する授業での取組を行い、いじめを把握し、いじめを許さない学校づくりの取組を続けた。
- エ○本年度の学力調査の結果から、本校が昨年度から力を入れてきた「話すこと・聞くこと」に関して成果が見られたことと、分掌の内容を読み取る力に課題が見られることを分析し、共有した。「話すこと・聞くこと」の成果を生かすため、今年度も校内研究や朝の会や様々な教育活動の中で意識して取り組んだ。内容を読み取るために欠かせない漢字学習にも、各学年 90%以上の定着を目指した。学年や個人による差異はあるが、学期末にはほぼ 8~9 割の達成が見られた。算数少数指導での授業の最初の時間を活用した復習やクロームブックの活用、繰り返し学習、校内・校外の漢字検定や算数検定などにも取り組み、基礎的・基本的な学習内容の定着を図った。
- English week では、都からの派遣以外に、本校の外国語講師の知り合いの学生数人を招き、自己紹介集会、英語絵本の読み聞かせ、英語の歌や児童と共に普段の授業を受けるなど、外国語教育の充実を図った。また、様々な教科での CANVA 等 ICT を活用した教材の工夫、ユニバーサルデザインを意識した教室整備や発問の仕方等を通して、学習意欲の向上を図った。
- ICT を活用した授業づくりに関する校内の研修を複数回設け、ICT の環境づくりを進め、教員の授業力向上を図り、教員の理解を促進することができた。
- 学校予算を効果的に活用して、外部人材を登用した授業や支援員の充実を図った。
- オ○校内研究を中心に全教育活動を通じて言語活動を充実させ、主体的・対話的で深い学びへの授業改善を意識し、課題解決力の向上を図った。
- ビブリオバトル集会に繋がる各学級の学びや読書旬間、全校での読書の累計ページ数の取組、教員による本の紹介、各学級での担任以外の教員の読み聞かせや、府中第七中学校の生徒による全学級での読み聞かせなど、読書環境を更に整備し、整えた。学校経営支援員を日常の図書室運営に活用し、読書に親しむ活動の充実を図った。
- 教員が指導教諭による授業等、都や市の研修・研究協力校等制度を積極的に活用できるよう周知し、奨励した。外部の研修で学んだことの伝達講習を教員自らが行う姿も見られた。
- 小中連携の取組を活用し、第七中学校や同校学区の小学校と情報交換しながら、育てる子供像を共有化し、小中連携及び一貫教育の一層の推進と充実を図った。
- 教員の職層に応じてグループ別に研修を行うなど職層の役割をより明確した。週 1 回設けたミニ研究・研修の時間を活用し、教員が研修等のリーダーを務めるなどして OJT の更なる充実を図った。
- カ○教員の校内研究の主題を「対話を促す環境づくりを通じた、思いやりのある話し手、たくましい聞き手の育成」とし、国語科を中心として「発見すること」「対

話すること」「決定すること」「表現すること」の育成を図り、教員が主体的・対話的で深い学びを充実させるための授業改善を推進した。その取組の中で、児童の話が一方通行ではなく、会話がキャッチボールになる姿が低学年のうちからみられるようになった。次年度は、他教科や日常の場面で学んだことがより活用できるようさらに研究を進めていく。

○宿泊行事における他者意識や自分の役割に関する捉え方など、具体的な活動を通してお互いに話し合ったり活動したりする中で、より児童同士が関係を深めていく姿が見られた。6年生が5年生時の後半から取り組んでいる、空いている部屋を学校の児童のためにどう活用していくかという取組では、自分たちで考え、アイデアを出し、計画して実行し、また考えていくという特別活動の大事な道筋をダイレクトに行うことができた。他学年でも様々な校外学習等を通して社会規範や創意工夫する実践力を身につける姿が見られた。

○複数の単級学年がある特異性を鑑み、校務分掌等の見直しを行った。学級が複数ある学校では当たり前とされていることも教職員協力しながら見直しを行っている。学校経営支援員や副校長等校務改善支援員の在り方もさらに見直し、学校の組織力をより高め、これからも働き方を見直していく。

○小規模校で働き方を考えながら教員の更なる授業力の向上を図るために、会議のもち方や研修の形を工夫した。どのような形が最もよいかこれからも模索していく。

キ○家庭学習では、各学年漢字・計算などの基礎力の定着を図る課題を日常的に提示するとともに、ICTを活用してe-ライブラリや調べ学習、グラフやリーフレット作りなどの課題を長期休業等を利用して課題として出すなど、家庭教育の充実を図った。

○学校だよりや保護者会、道徳授業地区公開講座等で、家庭教育に関する情報を発信したり、新たに保護者が誰でも気軽に参加できる「武小っこ保護者会」を年3回実施したりして、保護者の子育てにおける悩み等の軽減に努めた。

ク○保護者会や運動会などの行事及び学校公開を通して保護者との繋がりを深めるよう努めた。「武蔵台小学校有志の会」と連携し、有志の会発進のボランティア活動を支持し、家庭との連携を深められるよう努めた。

○スマート連絡帳等を活用し、子育てに関するイベントや事業を随時紹介するなど、外部機関との連携を図った。

ケ○府中市環境政策課や府中市公園緑地課、武蔵台緑地保全ボランティアや国分寺市役所ふるさと文化財課その他地域の方々の協力を得て、学校周辺の自然を活用した環境教育や稲作、地域の歴史の学習を行った。武蔵台学園との交流も行い、地域学習の活性化を図り、「ふるさと」府中への愛着を深めることに努めた。

○スクールコミュニティ協議会を各学期に1回開催し、地域コーディネーターや地域人材の方々のご意見やご協力を学校運営に取り入れ、地域との連携を深めるこ

とに努めた。

- 府中刑務所の刑務官からお話を伺うなど、「府中のまち クリエーターノート」の実践校として地域人材を生かした学習に取り組んだ。

(2) 重点目標と方策

- 教育目標「よく考える子ども」を重点目標とする。

教員の校内研究の主題を「対話を促す環境づくりを通じた、思いやりのある話し手、たくましい聞き手の育成」とし、国語科を中心として「発見すること」「対話すること」「決定すること」「表現すること」の育成を図り、教員が主体的・対話的で深い学びを充実させるための授業改善に努めた。2年生でのミニビブリオバトル、4年生での学級会の研究授業等に取り組む中で、児童が相手の話を受けて考えながら話す様子が以前より見られるようになった。児童が学習したことを他教科や日常の場面でより生かせるよう、これからも研究を深めていく。

- (1)のアで述べたように、校内委員会を活用して特別支援体制の強化をさらに図ることに努めた。

- その他重点を置くことに関しては、

- ・(1)のエで述べたように、効果時にICTを活用した授業づくり、ユニバーサルデザインを意識した環境づくりに努める中で、教員の授業力向上を図った。
- ・ぴよんぴよんタイム(縄跳び)やランランタイム(持久走)を行い、運動に対する意欲や意識を高めることに努めた。各学年でも体育の時間の準備体操に工夫を凝らすなど少しでも運動に前向きになるように努めた。
- ・(1)のオで述べたように、第七中学校や同校学区の小学校と情報交換しながら、育てる子供像を共有化し、小中連携及び一貫教育の一層の推進と充実に努めた。管理職やコーディネーターの連絡もよりスムーズに行うことができた。

2. 次年度以降の課題と対策

- 学力の維持・向上

全国学力調査では市や都とさほど差異はないが、個人や学年による差が見られる。現在取り組んでいる基礎学力をつけるための取組を続けるとともに、各個人や学年の特徴に合わせた取組もより工夫していく。

- 生活指導への取組

生活指導上の様々な課題に対し、様々な取組を行っているが、常にその効果を検証し、よりよい在り方を模索していく。

- 小規模校であることを踏まえた学校・学校組織の在り方の検討

現在も様々な改変に取り組んでいるが、府中市として前例のない規模の本校の組織のよりよい在り方をこれからも模索していく。

- 60周年行事に向けての準備

本校は令和9年度に60周年を迎える。令和8年度は準備を計画的に行っていく。